

平成28年3月2日

施政方針

白河市長 鈴木和夫

施 政 方 針

白河市長 鈴木 和 夫

はじめに

平成28年3月市議会定例会の開会に当たり、平成28年度一般会計当初予算案をはじめ重要な議案を提出いたしました。

以下、その概要についてご説明いたしますが、それに先立ち、新年度の市政運営についての基本的な考え方並びに当面する市政の諸課題について所信の一端を申し上げます。

さて、今、世界では、頻発するテロや力で現状変更を試みる動きにより、国際秩序への脅威が拡大しており、また、難民問題に直面する欧州では、各国の対応の違いから、EUの存在そのものが揺らぎ始めるなど大きな転換期を迎えています。

また、世界経済は、これまで成長を牽引してきた中国を始めとする新興国の減速が顕著となっており、長期化する原油価格の低迷とあいまって、先行きの不透明感が増しております。

さらに、昨年末のアメリカの利上げにより、リーマンショック後から世界経済を支えてきた資金が新興国からアメリカに逆流していることもあり、昨年、比較的堅調であった株価も、年明けから大きく値を下げきております。

我が国の経済は、緩やかな回復基調が見られたものの、個人消費や設備投資は低迷しており、ここ数年来の円安・株高による企業収益が、賃金の上昇や設備投資の拡大に繋がるかどうか焦点となっています。

このような中、政府は、新たな経済活性化と社会保障の充実を目指す「新・三本の矢」を打ち出し、それを受けた補正予算では、保育所、介護施設の整備や、これに関わる人材の確保などとともに、TPP発効に備えた農林水産業の

体質強化に要する経費を計上しております。

また、当初予算案は、一億総活躍社会の実現をはじめとした重要課題に取り組むため、一般会計総額9兆6千7億7千万円を超える過去最大の規模となりました。

歳入では、法人税や所得税の伸びにより、税収について25年ぶりの高水準が見込まれることから、新規国債発行額は4年連続で減少し、公債依存度は昨年度から2.7%低下しています。

歳出では、社会保障費について、診療報酬が8年振りにマイナス改定となったものの、希望出生率1.8の実現に向け、保育サービスやひとり親・多子世帯支援の拡充に要する経費が盛り込まれています。

その他、農林水産業費には、高収益作物への転換や輸出の促進、経営力向上を図るための経費が計上されており、公共事業費は前年度と同規模が確保されています。

また、地方交付税交付金につきましては、地方税収が伸びたことにより減額となっておりますが、地方の一般財源総額については確保されている状況にあります。

全体では、平成32年度のプライマリーバランスの黒字化達成へ向け、経済・財政再生計画を踏まえ、歳出総額の伸びを抑制しております。

次に、県の当初予算案につきましては、今年度とほぼ同規模の約1兆8,800億円が計上され、その半分以上が震災・原子力災害対応分となっています。

主な内容としましては、まず、復興を加速化し、新たな雇用の場をつくるため、災害対応ロボットの国際的な共同研究施設の整備に取り組むとともに、市場拡大が見込まれる航空・宇宙関連産業への中小企業の参入促進や医療機器関連産業の集積を図ろうとしています。

また、待機児童の解消に向け、小規模保育園への移行を目指す認可外保育園の運営を支援するとともに、多世代の同居や近所への居住を促すことにより子育て環境の整備を図るほか、本県の観光資源を生かした地域づくりを推進するため、明確な観光戦略により誘客を図る、福島版DMOの設立を目指しています。

本市の基本方針

震災から間もなく5年が経とうとしています。

この間、市民や団体、企業及び行政が各自の役割を果たし、また、相互に連携することで、本市は、ほぼ震災前の状態に戻ることが出来ました。

また、先の見えなかった原子力災害についても、9月に市内全域の個人住宅除染が完了する見込みとなるなど、一つの区切りを迎えております。

さらに、私は、この逆境をバネとして、白河市の将来を左右する基盤をつくる好機と捉え、国道294号バイパスや文化交流館の整備、また、企業誘致に全力を挙げて取り組んでまいりました。

その結果、これら主要な事業を含め、全体として順調に進んでおり、その成果も現れてきております。

しかしながら、一方では、「人口減少」という課題が浮き彫りになってきていることから、これに確実な手を打ち、持続可能な地域社会を創造していくための指針となる「総合戦略」を策定いたしました。

今後は、基本目標である「産業の振興」、「子育て環境の整備」、「交流人口の拡大」に、戦略的・重点的に策を講じるとともに、検証、改善のPDCAサイクルを回すことで、より効果を高めてまいる考えであります。

これらを推進していく上で最も重要なのは、「自分のまちは自分でつくる」という気概を持つこと、そして、それを市民と行政が共有し同じベクトルを持つことであると思います。

幸い本市では、ここ数年来、まちづくりに主体的に取り組む気運が広がっていると感じております。

これまで培ってきた市民との信頼をさらに深め、音が調和して響きを増すように、互いの力を活かし合い、5年後、10年後のために、新しい種を蒔いていきたいと考えております。

一般会計予算の概要

次に、一般会計当初予算案の概要について申し上げます。

歳入では、地方交付税が、合併算定替の特例期間終了などにより減収を見込んでおりますが、市税では、個人所得や企業収益が堅調に推移していることから増収を見込んでおり、前年度並みの一般財源を確保できる見通しであります。

さらに、各事業において 国・県支出金を最大限に活用するとともに、合併特例債や各種基金を有効に活用し、財源の確保を図ったところであります。

次に、歳出につきましては、産業の振興や子育ての充実、交流人口の拡大に加え、教育環境の整備、医療福祉の充実、社会資本の整備などに所要の額を確保いたしました。

その結果、一般会計予算の総額は、文化交流館や中央中学校建設などの大型事業が概ね完了し、除染対策費が減少したこともあり、今年度を下回ったものの、377億9千万円の大型予算となりました。

次に、主要な事業についてご説明いたします。

第1に、安全・安心プロジェクトについて申し上げます。

まず、**除染対策事業**につきましては、昨年10月に着手した、市街地区域、大沼・関辺・五箇、さらには表郷、東地域の約4,900世帯について、9月の完了を目指し作業を進めてまいります。

また、**中間貯蔵施設**につきましては、一部造成工事が始まり、大信地域仮置場から試験的に土壌を搬出したところであり、今後とも、国県に対し、早期の完成と円滑な搬出を強く求めてまいります。

次に、**消防・防災体制の強化**につきましては、地域防災の要である消防団を支援するため、消防車両や屯所を計画的に更新してまいります。

第2に、健康・福祉・医療プロジェクトについて申し上げます。

まず、**子育て支援**につきましては、妊娠から子育ての様々なニーズに対し切れ目のない支援をするためのワンストップ拠点である「子育て世代包括支援センター」を設置いたします。

また、新たに、男性不妊治療への助成を行い、支援を拡充してまいります。

また、高校生以下の子どもが2人以上いる家庭の保育園・幼稚園の保育料を、第2子は半額、第3子以降は無料化し、多子世帯の経済的負担の軽減を図ってまいります。

また、「白河っ子応援事業」では、より細やかな相談事業やフォローアップを行うため、新たに臨床心理士を配置するとともに、スマートフォン向け子育て支援アプリにより、健診や予防接種の時期を配信するなど、必要な情報の提供に努めてまいります。

さらに、「つどいの広場事業」では、新たに1箇所開設するとともに、出張広場を実施し、気軽に親子で集える場の充実を図ってまいります。

次に、**保健・医療**につきましては、二次救急医療機関の搬送受入の向上や、圏域の脳外科医の不足を解消するため、医師確保に向けた財政支援を実施いたします。

また、県立医大の「地域医療実習」を新たに受け入れるとともに、医療機関の適正受診等の啓発事業を実施してまいります。

さらに、健康づくりメニューの実践により特典を受けられる「いきいき健康マイレージ事業」や、高血圧対策の「へる塩プロジェクト事業」などにより、市民一人ひとりが健康づくりに意欲的に取り組めるよう支援するとともに、保健指導を積極的に行い生活習慣病の発症及び重症化予防に努めてまいります。

次に、**高齢者福祉**につきましては、昨年より開始した「介護支援いきいき長寿ポイント事業」の拡大に努めるとともに、「高齢者サロン」の市内全域への開設を進めてまいります。

また、弁当の宅配やゴミの訪問収集をはじめとした生活支援サービスを引き続き提供するとともに、企業や団体と連携した「地域見守り活動」を実施してまいります。

さらには、認知症の方やその家族の相談を受け、必要なコーディネートを行う推進員や、早期の診断により適切な治療や介護が受けられるようにする支援チームを設置するとともに、認知症の進行状況に合わせた対応方法を標準的に示した「ケアパス」の普及・啓発を図ってまいります。

また、医療と介護の連携拠点を設置し、包括的なケアを推進してまいります。

次に、**障がい者福祉**につきましては、中・軽度の難聴児童に対する補聴器の購入費助成を拡充し、新たに、修繕費の助成も行います。

次に、**生活困窮者支援**につきましては、引き続き専用の相談窓口を開設し、就労支援や住居確保給付金などを通して自立を促進してまいります。

第3に、産業・雇用プロジェクトについて申し上げます。

まず、**産業振興**につきましては、新たに起業を目指す女性や若者、第二創業者を支援するため、引き続き、産業サポート白河等と連携し、セミナーや相談会を開催いたします。また、市場調査や、新商品・新サービスの開発、販路拡大を目的とする出展会参加へ助成を行うとともに、融資制度の活用を推進してまいります。

また、企業情報や支援のノウハウを有する金融機関との連携を強化し、地元企業の受注・取引拡大を図るため、展示会や商談会等への出展を促してまいります。

さらに、地元企業の情報発信とインターンシップの受入体制を整備するとともに、面接に要する交通費を一部助成することにより、U I Jターンを推進するなど、若者等の地元定着を進めてまいります。

次に、**企業誘致**につきましては、三菱ガス化学第1期計画の建設工事が、来年2月の操業開始に向け順調に進められております。

また、ヤフーデータセンターにつきましては、急速に拡大しているクラウドサービスなどの需要増に対応するため、昨年、拡張用地として隣接地を取得しており、4月には、4号棟の建設に着手する予定となっております。

今後も、地理的優位性など本市の魅力を発信し、成長産業を中心に企業誘

致を推進してまいります。

次に、**農業の振興**につきましては、担い手の育成・確保と農業経営の安定化のため、新規就農者の経営を支援するとともに、農地中間管理機構を通して農地の集積・規模拡大を行った農家に対しても新たに助成してまいります。

また、地産地消とブランド化を推進するため、白河産米の消費拡大に取り組むとともに、農畜産物を活用した新商品開発や販路開拓等を支援してまいります。

さらに、国のＴＰＰ関連対策事業等を活用し、農業経営の収益力・生産基盤を強化するために必要な施設等の整備に対し支援してまいります。

次に、**大信地域市民交流センター**については、地域の農畜産物を活用した食事の提供や、農産物・加工品等の販売に加え、日常的に市民が集う、賑わいのある施設となるよう、7月の開館に向け、準備を進めてまいります。

次に、**観光の振興**につきましては、本年4月から6月まで開催される「アフターDC」において、「ご当地キャラこども夢フェスタ」や「南湖公園桜と音楽の祭典」などのイベントを通して、県南8町村と連携し、地域の歴史、文化、自然などの魅力をPRしてまいります。

また、周遊型観光を推進するため、公衆無線LANの整備に取り組むほか、スマートフォン用アプリを活用したイベントや映像を用いた観光プロモーションを展開してまいります。

次に、**風評被害対策**につきましては、引き続き、本市農畜産物の安全性を首都圏等でアピールしていくとともに、南湖の「楽楽らくおう」において白河の食材による特別メニューを提供し、食の魅力と観光誘客を図ってまいります。

次に、**中心市街地の活性化**につきましては、引き続き、リファイニング工法により、市民交流の拠点であるマイタウン白河の改修工事を進めてまいります。

第4に、教育・生涯学習プロジェクトについて申し上げます。

まず、**教育環境の充実**につきましては、「中央中学校」の新校舎が完成し、

現在、「釜子小学校」の新校舎建設に着手しており、プール、屋内運動場を含め、平成30年度の竣工へ向け、工事を進めてまいります。

また、子どもの個性に応じた指導を行うため、非常勤講師を増員するとともに、子どもの心理状態を把握するテストの対象を広げ、いじめや不登校を未然に防止してまいります。

さらに、学校司書の配置校を増やし、学校図書館の有効活用を図り、本に親しむ子どもたちを増やすとともに、「白河の歴史文化再発見事業」では体験学習を拡充することにより、本市の歴史や文化についての理解を深め、郷土に対する愛着や誇りを醸成してまいります。

また、大学入学一時金の貸与につきましては、新たに専修学校についても対象とし、保護者の経済的負担の軽減を図ってまいります。

次に、**生涯学習の充実**につきましては、福島大学サテライト教室等の講座を継続するなど、市民の学習機会の確保・充実に努めるとともに、「白河市男女共同参画計画」の改定や、女性活躍推進計画策定に向けてアンケート調査を実施します。

また、これまで分散開催していた成人式につきましては、文化交流館コミネスの開館に合わせ、新年度より統一して開催いたします。

次に、**スポーツの振興**につきましては、昨年、高知県の土佐女子中学高等学校からバスケットゴールの寄贈を受けたことから、「福島ファイヤーボンズ」の白河大会に合わせて同校の生徒等を招き、市内の中学生との交流試合を行います。

また、スポーツ推進計画の策定に向け、市民のスポーツに関する意識調査を行ってまいります。

次に、本年10月に開館を迎える**文化交流館コミネス**につきましては、芸術文化の拠点として、質の高い舞台芸術の鑑賞機会を提供するとともに、日常的に市民が集う広場となるよう、年間を通して多彩な事業等を計画しております。

特に、開館直後には、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団の公演や、NHKの公開収録などが予定されていることから、開館に向けた準備に万全を期してまいる考えであります。

次に、**小峰城跡**につきましては、引き続き、竹之丸南面、本丸西面、雪見櫓、本丸北面の石垣積替えを行い、早期の崩落箇所修復に努めるとともに、将来の一体的な史跡整備のため、土地の公有化に取り組んでまいります。

次に、**南湖公園**につきましては、史跡名勝として今後の具体的な保存整備・活用を図るため、整備基本計画を策定するとともに、侵食が見られる護岸の整備に取り組んでまいります。

次に、集古苑の**特別企画展**につきましては、長崎県平戸市の「松浦史料博物館」の協力により、松平定信の娘、蓁（しん）姫ゆかりの美術工芸品展を開催いたします。

第5に、都市基盤プロジェクトについて申し上げます。

まず、**歴史と文化を活かしたまちづくり**につきましては、まちなか回遊の拠点づくりとして、小南湖の駐車場及び公衆トイレの整備を行うとともに、旧脇本陣柳屋旅館の蔵座敷についても伝統工法により修復を行ってまいります。

次に、**景観まちづくり**につきましては、独自の条例としては県内初となる屋外広告物条例の周知を図るとともに、ガイドラインを作成し、適切な規制・誘導に努めてまいります。

また、景観協定による修景事業や、市民自らが行う良好な景観づくりを引き続き支援してまいります。

次に、**道路網の整備**につきましては、国道294号白河バイパス工区では、「新田町大橋」の工事に着手し、また、豊地工区では、29年度の完成に向け、東北自動車道交差部分のボックスカルバート工事が進められる予定となっています。

次に、**市道**につきましては、金勝寺大谷地線、老久保2号線、梁森中寺線などの整備に着手してまいります。

また、西郷高原大橋など橋梁の補修を行うとともに、定期点検を実施し、施設の長寿命化を図ってまいります。

次に、**都市計画道路**につきましては、「白河駅白坂線」向新蔵工区の整備に

向け、引き続き、県と連携を図ってまいります。

また、文化交流館コミネスへのアプローチとなる乙姫桜プロムナード2号線については、28年度の供用開始を目指し整備を進め、さらに市内を巡る歩行系回遊ゾーンの拡充に取り組んでまいります。

次に、**市営住宅**につきましては、引き続き、外壁及び設備等の改修を行い、施設の長寿命化を図ってまいります。

次に、**住宅政策**につきましては、新たに三世代同居等を始める世帯に対し、住宅取得や増改築リフォームに要する費用の一部を助成し、良好な住環境づくりを推進してまいります。

次に、**公共下水道**につきましては、引き続き白坂双石幹線、飯沢山及び葉ノ木平地区の整備、都市環境センターの施設更新を進めてまいります。**農業集落排水**につきましては、久田野地区の施設改修に着手し、さらに、公共下水道等の区域外では、引き続き市が行う**合併処理浄化槽**の設置を推進してまいります。

また、公営企業会計への移行に向け、固定資産台帳の整備等に着手してまいります。

次に、**水道事業**につきましては、大信・五箇・久田野地区の石綿管布設替及び市内の老朽管布設替を実施するとともに、向山配水場の耐震補強工事に着手してまいります。

次に、**地域公共交通**につきましては、利便性向上に向けた調査・検討をするため、地域バスの試験運行を実施してまいります。

第6に、**環境・コミュニティプロジェクト**について申し上げます。

まず、**環境保全対策**につきましては、不法投棄を防止するため、監視強化を図るとともに、市民による資源回収活動への支援を継続してまいります。

次に、**地域コミュニティ**の強化につきましては、町内会の活動拠点となる集会所を計画的に整備するとともに、自主的な活動を支援する「地域の底力再生事業」や「“結”支援事業」をさらに推進してまいります。

また、街なかの空き家を活用した「コミュニティ・スペース」を通して、

若者が自由な発想でまちづくりに参加することを支援してまいります。

さらに、「地域おこし協力隊」の活用を拡充し、地域の活性化を図ってまいります。

最後に、行財政運営について申し上げます。

まず、**財政の状況**につきましては、近年、実質公債費比率をはじめ、財政指標の改善が図られておりますが、今後、普通交付税の段階的な減少や、扶助費、公共施設の維持管理費等の伸びが見込まれることから、事務事業の見直し等により、引き続き健全な財政運営に努めてまいります。

次に、**組織の見直し**につきましては、保健福祉部内に「こども未来室」を設置し、こども課と健康増進課の母子保健係を編入し、妊娠から出産、子育てに至るまで切れ目のない支援を行ってまいります。

また、歴史や文化など、本市の特色を生かした美しい景観づくりを推進するため、都市計画課内に「景観係」を新設してまいります。

次に、**職員の資質向上**につきましては、本市の地域性を生かした政策を立案し、実行できる人材の育成を図るため、「ふくしま自治研修センター」での研修をはじめ、国や県への職員派遣など、各種研修事業を実施してまいります。

次に、**広報広聴**につきましては、現在、月2回発行している広報紙を1日号のみに集約し、全ページカラー刷りにすることで写真等を効果的に活用するとともに、リニューアルしたホームページを通し迅速な情報の提供に努めてまいります。

また、市政懇談会や各種会合などを通して、市の方針や取り組みを丁寧に説明するとともに、多くの市民の皆様の声を拝聴し、市政に反映するよう努めてまいります。

以上、新年度における市政運営と当面する諸課題について、基本的な方針を申し上げます。

昨年12月、JAXA（ジャクサ）は、5年前の失敗と様々な困難を乗り越えて、探査機「あかつき」を金星の周回軌道に乗せることに成功しました。

この偉業達成の背景には、日本人の持つものづくりへのこだわりや確かな技術力、そして何よりミッションへの強い情熱があると思います。

今、我々の前には、世界に例のない超高齢化や少子化など、多くの課題が顕在化しておりますが、これに向けた明確な方針を示すことが困難な状況となっています。

しかし、目指すべき社会の目標を掲げ、心を同じくして、より確かな手を打っていけば、必ずや課題を乗り越えることが出来ると考えております。

未来への一步を、強い情熱を持って踏み出していく所存でありますので、議員各位並びに市民の皆様方のより一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

